

MATSU DOING 2050

わたしがつくる！
まつどのみらい

[かわら版] #4



第4回まちづくりワークショップが 開催されました！



[https://
www.facebook.com/
MATSUDOING2050/](https://www.facebook.com/MATSUDOING2050/)



第4回目のワークショップが開催されました。「機能から考える—これからの公共空間にふさわしい機能とは—」というテーマのもと、一般公募の市民や学生の方々と市役所若手職員が活発な議論を行いました。

日時=2019年12月14日 13時30分～16時55分

会場=松戸市中央保健福祉センター

参加者=59名

柳澤要 | やなぎさわ かなめ
千葉大学大学院工学研究院教授

廣井悠 | ひろいゆう
東京大学大学院工学系研究科准教授

横張真 | よこはりまこと
東京大学大学院工学系研究科教授

宮城俊作 | みやぎ しゅんさく
東京大学大学院工学系研究科教授

藤村龍至 | ふじむらりゅうじ
東京芸術大学大学院美術研究科准教授

横張真氏による挨拶

はじめに横張真氏より新たな体制についてと改めてこのWSについて説明を頂きました。前回までのWSでは、参加者が松戸駅周辺の地図上にさまざまな意見を出し議論を重ねました。今回はその区切りとして、今までの意見をまとめ松戸駅周辺に今後必要な公共空間の機能を考



えます。現状の松戸駅周辺のまちの要素をうまく組み合わせながら実際にどんな器となる施設が必要となるのか、検討をしてもらいたいと述べられました。

柳澤要氏によるレクチャー



続いてゲストである千葉大学の柳澤要氏から「人口減少社会における公共施設のあり方」と題したレクチャーがありました。松戸市の人口減少には地域差があり、公共施設は地域特性に合わせた対策を施す必要があります。また、財政資源の減少で2050年には現在の公共施設床面積の3割程度が修繕できなくなる可能性があり、公共施設を適正に削減しつつ、公共サービスを向上させるための7つのキーワードが共有されました。

1. 複合：ひとつの建物に単独の機能に対応させるのではなく、関連機能を集約し

拠点化すること| 2. 分散：公共サービスを遠隔化すること| 3. 共有：場所や時間等を共有すること| 4. 移動：固定的ではないこと| 5. 仮設：ニーズに応じてコンテンツを増減させること| 6. 融合：インクルーシブデザインやユニバーサルデザインを取り入れること| 7. 参加：使う側が参加して考えること

廣井悠氏によるレクチャー



続いてゲストである東京大学の廣井悠氏から「公共空間に求められる防災機能と安全なまちをつくるポイント」と題したレクチャーがありました。大きな地震が松戸市の直下に発生した場合のシミュレーションや他の都市の災害時のHQ（ヘッドクォーター）の対応を辿りながら、防災都市の視点で災害に強いまちづくりについて考えます。ただし防災至上主義のまちづくりではなくデータや対応策といった「客観性」、民間の意見等の「地域性」、景観や観光の視点といった「多様性」の3つのポイントが重要です。第4回まちづくりWSでは客観性=専門家、地域性=民間、多様性=行政職員の揃った理想的な議論の場が生まれています。

それぞれの役割を理解し、WSに望みます。



1. グループワーク

今回のWSはこれまでの議論で集まった意見を集約したマップを下敷きにして、松戸市に必要な機能を配置したデザインマップを8グループに分かれて作成します。

2. 発表

1班 | Matsudo Central Park

自然豊かな景観を活かした散歩のできるまち。まち全体を「(概念としての)パーク」として解釈し、機能を分散させる。

2班 | 大きな逃げ道をつくる

西側の水害リスクに対応するため、駅の東西をつなぐ避難動線を強化する。新拠点ゾーンと避難動線は日常時は大きな回遊動線となる。

3班 | 駅と商業と公共をひとつに繋がりにする

広い空間に防災拠点・商業・文化施設などの居場所を分散して配置する。エリ

アを機能ごとに分割せず、つながりとなった状態とする。

4班 | シンボルゾーンとソリューションゾーン

国有地の多いエリアをシンボルゾーンとし、空き家や学校機能などが多いエリアをソリューションゾーンとして課題解決するエリアを戦略的に考える。

5班 | 新しいまちと歴史的なまちをつなぐ

歴史的な文化資産の多い西側はまちなみや自然を保存して松戸の魅力を整備する。公共的で自由な東側は外部から人を呼び込むようにする。

6班 | 人の流れをつくる

機能や施設といった器の整備ではなく、松戸の文化資産である水と緑と歴史を下敷きに人の流れをつくる。

7班 | ランドマークをつくる

市役所機能や図書館、美術館、外国人向けホテルを複合し、ランドマーク化する。松戸のまちなみに変化をつける。

8班 | 楽しく歩けるまちをつくる

車両制限で安全に集えるような規制エリアを設定する。公共機能を分散させ、楽しいまち歩きのための動線計画をする。

3. 統合

各グループの発表を踏まえ、各案の提案を統合したまちづくりデザインマップ002案を作成しました。

● WALKABLE ZONE | さまざまな居場所をつなぐ、楽しく歩けるエリア。

● SOLUTION INCUBATION | 駅周辺の課題が集まるエリア。地価が安く、事業の戦略的なスタートアップに適している。

● REC(REATION) | レクリエーション等に適した自然豊かな江戸川の河川空間。

● MCP | 松戸セントラルパーク。機能が点在する公園のような空間。

● HQ | 災害時の司令塔機能。

● COMMERCE CULTURE | 商業・文化の集まるエリア。駅と新拠点ゾーンをひとつなぎに考える。

次回のWSでは、この統合案をベースとしてさらなる議論を進めていきます。



廣井氏コメント

松戸市は高所かつ広大な新拠点ゾーンがあり、都市防災のわかりやすい構造があるので方針が立てやすい。復興機能と本部機能の配置など、HQの在り方については議論が必要である。

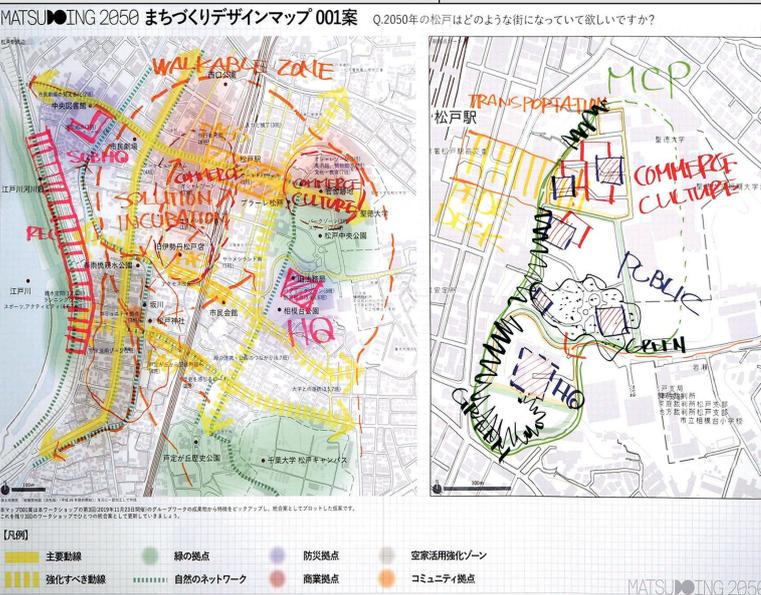
宮城氏コメント

さまざまな機能が分散するイメージを持つ班が多い。駅周辺の自然を守りたいという意識が働いているように感じる。

横張氏コメント

日本家屋は襖等で空間を切り分けてフレキシブルに居室を扱う考え方。WSの議論は日本家屋の発想をまちづくりに拡張している。時代や使われ方によって変化する場所を考えていくことが課題なのではないか。

次回は2020年1月18日(土)
13:30-17:00
松戸市民会館で
開催します。



シャレットでまとめたまちづくりデザインマップ002案(専門家を加えた参加者全員で1つの総合案を作成)
*WSでの案をもとに一部表記を統一しています